

## 令和 4 年度 事業計画・収支予算

自 令和 4 年 4 月 1 日  
至 令和 5 年 3 月 31 日



令和 4 年 5 月 28 日 (土)

N P O 法人 川に学ぶ体験活動協議会

# 令和4年度 NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事業計画案

## 1. 総括

当協議会は平成12年の設立以来21年を経過し、その間に、川の指導者の養成活動や子どもたちの川体験の支援を推進してきた。日本で唯一の川の指導者認定制度を持つ、最大の川の指導者ネットワークとして位置付けられ、日本水大賞においてグランプリを受賞する団体に成長した。しかしながら、令和2、3年度はコロナ禍で、河川事務所からの受託事業や自治体からの体験活動などのサポート依頼も激減してしまった。また、会員団体においても活動が制約された厳しい環境の中での2年間を経過しているところである。

一方では、川の事故は後を絶たず相次いで起きている現状にあり、当協議会が提供している、安心して安全な川遊びや川から学ぶ社会の構築についての重要性は従来にも増して大きくなっているものとする。コロナ禍の動向と関連しながらも、川での活動は活発化することが想定されることから、再び、各種活動を積極的に実施、展開していかなければならないと考える。

## 2. 会議

- (1) 理事会 — 令和3年度の活動報告・会計報告、令和4年度の事業計画・収支予算等についての審議及び議決を行う。

[開催日時] 令和4年5月28日(土) 13:30~14:30 /東京都

[開催場所] 国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟

- (2) 総会 — 令和3年度の活動報告・会計報告、令和4年度の事業計画、収支予算等についての報告を行う。

役員改選について審議する。

[開催日時] 令和4年5月28日(土) 14:45~16:45 /東京都

[開催場所] 国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟

- (3) 常任理事会 — 業務執行に関する検討、講座・資格の審査認定、各種規定などの審議を随時行う。

- (4) 専門部会・委員会

### ① 企画総務部会

総務対応/全国大会対応/地域ブロック毎の普及活動促進・把握/全国一斉1万人・川の流れ体験キャンペーン(川流れのスポンザー探しを行う)/RAC資機材の販売促進/機材の(ライフジャケット及びEボート等)のレンタルについて仕組みの見直し/RACフォーラム企画運営/リバーミーティングの推進/次期活動方針・提言等検討作業等中央行事企画を行う

## ② 人材育成部会

まだまだコロナ明けが見えない中ですが、少しずつ活動への制約も緩み始めました。野外での活動もだんだん制約が少なくなる中でも万全の感染対策をしながら、対面での実技指導の復活を目指します。

- ・ E ボートの活用事例を集めてさらに普及に努めたい
- ・ アシスタントリーダーから団体での活動指導の OJT を利用してリーダー登録を進めます。
- ・ 新たにアシスタントインストラクター制度構築を進める。
- ・ 次世代のトレーナー育成を通して、全国での指導者の育成を進める。
- ・ 水辺の指導者育成団体との連携を進め、水辺の安全対策を全国的に普及する。
- ・ RAC の付加資格と他団体の資格制度の交流を図る。
- ・ 上級指導者育成、加盟団体の強化のために他団体との連携を進める。
- ・ 東京都の小学校に体験活動を提案する。

## ③組織強化部会

RAC の活動をより多くの人達に知っていただくための体制の構築。各地での活動をより多くの人達に見て知っていただく方策が必要と考えている。SNS の充実／広報戦略を検討／広報・営業用ツールの整備／河川管理者と連携した河川業務事業者への RAC 活動の普及推進／組織強化策の企画／民間企業 CSR との連携・研究の推進／全国川遊び百選の拡充 / 防災教育プログラムの集約・開発 /

## ④学校連携部会

今までの取組の成果と課題を明らかにし、各委員同士の連携を密にし、活動を具体化するための方策及び中期・長期の到達目標を立てて協力して活動する。

- ・ 学校連携コーディネーター、学校リーダーの育成を通して、各地域の川の活動が安全で充実するように取り組む。
- ・ 学校で行われている河川教育の状況を把握し、モデル校や実践校の活動を広く紹介するなどし各地域の河川教育がより一層充実するようにする。
- ・ 学校連携部会への協力要請や資料の提供を求められた際には、RAC 事務局と連携し可能な限り協力し河川教育の充実に協力する。

## ⑤安全対策委員会

川での体験活動の更なる安全対策の検討／RAC 提供安全資機材の基準検討／RAC 登録指導者や会員団体の事故遭遇時の対応／幼児用 PFD の認定基準の普及・推進／川での体験活動をより安全にできるように対策を検討する。また、RAC 登録指導者や会員団体が事故に遭遇したときの対応を行う。

⑥審査認定委員会

川の体験活動指導者養成講座等 RAC 認定講座や支援の審査を行う。

3. 川の指導者養成等

(1) 普及講座

① RAC アシスタントリーダー、リーダー等指導者養成

- ・1万人を当面の目標にして全国各地の各河川で活躍できる RAC リーダーを養成する。
- ・学校の先生を対象にした学校リーダー講座を積極的に行っていく。
- ・アシスタントリーダーからリーダーになる筋道を作り仕組み作りを行う。

③ 付加資格関連講座の展開

- ・半日の水辺のリスクマネジメント講座や、1日の水辺のレスキュー講習、E ボート指導者講習等を展開する。
- ・新しい付加資格のシャワークライミング講座を展開する。

(2) 専門講座

① RAC インストラクター養成講座

リーダーを対象に地域ブロック毎に積極的にインストラクター養成講座を展開する。

② RAC トレーナー研修会等

各地で川に学ぶ体験活動を推進するための高度な専門家を養成する。(講座の支援については事前調査申請書を申請した団体で且つ開催地域の河川管理者と連携した取り組みについて優先的に行う)。また、RAC 指導者のいない地域でのトレーナー育成を行っていきけるような仕組み作りを行う。

④ RAC トレーナー養成講座

北海道、東北、九州地方でトレーナー養成講座を開催する。

④ E ボート指導者資料の見直し、ラフトも含めて制度作りを行う。(相互乗り入れ型)

⑤ 付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

インストラクター等高度な専門家を養成する一環として、水辺のリスクマネジメント講座及び水辺のレスキュー講習、E ボート指導者講習等を RAC リーダー養成講座と併せて展開する。また、それらの講師を担える専任講師を養成するための講座を展開

する。

⑥ 学校連携推進事業

学校連携のパイロット校のいままでの成果を活かし、今後、学校連携コーディネーター（基礎・応用・専修課程）の育成及び、RAC 学校リーダーを育成していく。

※いままでに RAC と連携した学校、RAC 学校会員登録校については川の活動の講師派遣（OJT 研修として）を行う。

⑦防災教育に関する指導者の育成

全国各地の防災教育の動向をみつつ、河川の防災教育に関してコーディネートできるように、身につけるべき知識技術について検討する。

(3) カリキュラム検討

① 付加資格講座カリキュラム再検討

「水辺のレスキュー講習」等既存の付加資格のカリキュラム内容についての課題を整理し、プログラム内容とマスター講師等の指導技術についてのブラッシュアップを同時に行う。（その他、各地の高度な専門家となるために、「川の防災教育」、「災害救援」等に関する付加資格の講習カリキュラムについて検討する。）

② 川の防災教育モデルカリキュラムの普及

見附モデルをもとに日常生活へ応用できる川での体験活動に関連する防災教育プログラムをホームページ等で普及する。

(4) OJT プログラムの普及

OJT 制度の見直しや川の指導者研修 OJT プログラムの普及とブラッシュアップを行う。また、RAC・OJT 認定講座として認定をした講座を支援する。

4. 全国大会等

(1) 第 21 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京

(共催事業)

開催地域で組織される実行委員会主催の全国大会を支援・共催する。

- ※ 日 時：令和 4 年 10 月 29 日（土）～30 日（日）予定
- ※ 会 場：検討中 他（コロナ感染を鑑みて決定する）
- ※ 主 催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京実行委員会
- ※ テーマ：大江戸・かわ物語（仮称）

## (2) RAC フォーラム等の開催

テーマ：未定

- ※ 日時：令和5年3月上旬予定
- ※ 参加費：7,000円程度（食費宿泊費別）
- ※ 会場：東京都 東京海洋大学 越中島キャンパス予定

## 5. 調査研究事業

### (1) 調査検討業務

#### ① 川の体験活動指導者普及事業

- ・全国各地で継続して川の指導者の養成を推進する。また、引き続き RAC リーダーの少ない地域（「RAC 過疎地」）で指導者養成講習会を開催できるような仕組み作りを行う。特に四国、中国地域の講座開催を重視する。

#### ② 河川業務職員及び工事関係者向け安全研修の展開

- ・河川業務に携わる方を対象とした、水辺のリスクマネジメント研修を展開する。研修プログラムは、地域のニーズに応じて、レスキュー訓練や防災用ボートの操船体験等も選択できるような内容とする。

#### ③ 水辺のひやりはっと事例の拡充

- ・ホームページの情報サイト「水辺のひやりはっとプラットフォーム」の事例拡充等を行う。

#### ④ その他関連事業

全国の会員団体とともに、あるいは公益法人等と連携して、RAC の目的を達成するための以下のような諸業務を提案し、実施していくこととする。

- ・「川に学ぶ体験活動」を普及するために必要な調査業務を提案する。
- ・川の安全利活用に資する安全講習及び川の指導者養成講座の運営業務を行う。
- ・河川水難事故防止に向けた講習会の運営業務を行う。
- ・ボートを活用した防災訓練イベント等の業務提案をする。

### (2) 「川育」関連事業

#### ① 子どもの水辺安全利用の普及

全国各地の自治体等で展開される水辺の活動などにおいて、水辺での体験活動を安全に実施するために必要な安全管理の基礎等について普及する。

## ② 防災教育関連

防災教育キャンプ及び防災スクールなど、川を活用した青少年育成事業を各地の構成団体を中心に拡大推進する。同時に防災キャンプなどについてはモデルプログラムを展開する。

## 6. 広報・普及活動

### (1) RAC 認定川育ライフジャケットの普及及び調査研究

- ・RAC 認定川育ライフジャケットを普及するために、WEB ページにて公開している認定審査を各メーカーへ個別説明を行う。

### (2) その他広報活動

- ・ホームページ、facebook を随時更新すると共に、リニューアルしたホームページのメンテナンスも含めて更新を行う。あわせて、RAC のバナー展開を進めて、RAC の知名度アップを図る。
- ・メールマガジン「RACNEWS」を随時回発行。
- ・民間・官公庁主催の水や川に関する各種イベントの場を、川の安全利用の推進の場、RAC の広報の場として活用できるよう努める。
- ・役員が中心となり各地域で普及活動を展開し、会員の拡大、指導者の登録及び更新率の向上を図る。役員が説明時に必要な書面の作成、充実を行う。

### (3) 川遊び百選

- ・今までに川遊び百選としてホームページに掲載していたが、令和 4 年度について精査を行う。

### (4) 川の指導者の道具、メンテナンス及び貸出促進事業

- ・RAC オリジナルグッズを普及し、より安全な水辺の体験活動の普及を行う。
- ・RAC 認定の PFD や、E ボート (G タイプ) 販売に関する企画提案を行う。
- ・令和 3 年度のレンタル状況を踏まえて機材のレンタル (ライフジャケットなど) 及び E ボートのレンタルについて、地域ブロック毎の拠点の拡充など仕組みの見直しを行う。

## 7. その他

### (1) 河川協力団体

- ・昨年に引き続き、令和 4 年度については東京での全国大会開催なども含めて荒川下流河川事務所との連携を行い、積極的に河川協力団体の立場として各種講座など河川利用者の立場で講座を開催予定。当法人の会員で河川協力団体に申請をした団体につい

てもヒヤリングを行いサポートしていく。

(2) 講習会関係

- ・講師派遣、自然体験活動指導者認定事業を行う。学校等へ子ども水辺安全教室の講師派遣を支援する。

(3) CSR 関連事業等

- ・当法人の展開する事業へ賛同意向のある企業と事業連携の可能性を調査し試行する。
- ・MIZBERING へ繋がっている機関等との連携をすすめる。

(4) SDGs 関連事業

- ・東京観光財団事業として、旧中川での E ボートを使ってプラスチックボトルフィッシング事業を展開する。修学旅行の受け入れも行う。
- ・海外からの環境会議出席者のエクスカージョンとしてプラスチックボトルフィッシングとして開催する予定。

(5) その他新規事業の提案

- ・当法人の目的を達成するために指導者や川を利用したいと思っている一般ユーザーのニーズの高い事業から優先的に新規軸となる取組みについて検討し事業化を目指す。
- ・SUP や E ボート等を活用した「リバーミーティング」の試行的に提供する。

以上



令和3年度 活動計算書・令和4年度予算書(案)

(令和4年4月1日～令和5年3月31)

特定非営利活動法人 川に学ぶ体験活動協議会

(単位:円)

科 目	R03年度 予算額 (A)	R03年度 決算額 (B)	R04年度 予算額 (C)	増 減 (B)-(A)
<b>I 経常収益</b>				
1 受取会費	1,800,000	1,580,000	1,400,000	△ 220,000
①受取会費	1,800,000	1,580,000	1,400,000	
②受取寄付金	0			
2 講習会等事業収益	600,000	1,301,134	1,200,000	701,134
①登録手数料・講習テキスト関連	100,000	759,560	700,000	
②講習会受講料	0	445,775	400,000	
③川に学ぶ全国大会	200,000	0		
④講師収入	300,000	95,799	100,000	
3 調査研究事業収益	5,800,000	6,550,500	6,500,000	750,500
①各種調査研究業務	1,300,000	1,408,000	1,500,000	
②指導者養成等講座運営	4,500,000	5,142,500	5,000,000	
③防災スクール関連事業	0			
4 助成事業収益	1,200,000	1,079,000	1,200,000	△ 121,000
①河川基金助成	1,200,000	1,079,000	1,200,000	
②その他関連事業	0			
5 グッズ等著作事業収益	4,130,000	5,995,091	5,700,000	1,865,091
①グッズ販売	3,500,000	4,815,441	4,500,000	
②グッズレンタル	600,000	995,684	1,000,000	
③川育認定	0		0	
④資機材点検	30,000	183,966	200,000	
6 その他	0	174	0	174
①その他	0	174	0	174
経常収益計	13,530,000	16,505,899	16,000,000	2,975,899
<b>II 経常費用</b>				
1 指導者養成関連事業費	3,930,000	5,291,744	4,720,000	1,361,744
1) 講習会事業費	470,000	610,361	720,000	140,361
①登録関連費・講習テキスト関連費	30,000	235,499	20,000	
②講習会関連費	10,000	8,820	350,000	
③川に学ぶ全国大会関連費	250,000	3,410	300,000	
④講師派遣関連費	180,000	362,632	50,000	
⑤自主事業費	0			
2) 自主事業費	60,000	374,511		314,511
①広報宣伝費	30,000	178,392		
②「水辺のひやりはっと」検証・普及啓発費	10,000			
③「川育」プロジェクト関連費	10,000			
④防災教育プログラム収集・発信関連費	10,000			
⑤川の流れ体験キャンペーン	0			
⑥日本水大賞受賞記念関連事業費	0	196,119		
3) 調査研究事業費	3,400,000	4,306,872	4,000,000	906,872
①各種調査研究業務費	1,000,000	1,398,498	1,000,000	
②指導者養成等講座運営事業費	2,400,000	2,908,374	3,000,000	
③防災スクール関連事業費	0			
2 助成事業費	1,200,000	1,466,029	1,200,000	266,029
①河川基金関連	1,200,000	1,219,000	1,200,000	
②その他関連事業	0	247,029		
3 グッズ等著作製作・管理費	2,700,000	5,142,716	4,700,000	2,442,716
①グッズ販売関連費	2,400,000	3,872,949	3,900,000	
②グッズレンタル関連費	300,000	787,005	700,000	
③川育認定関連費	0		0	
④資機材点検費	20,000	482,762	100,000	
4 管理費	4,950,000	4,905,289	5,150,000	△ 44,711
①人件費	2,300,000	1,408,334	1,500,000	
②賃貸料	950,000	801,600	800,000	
③管理諸費	1,000,000	2,111,777	2,300,000	
④消費税等	600,000	569,700	500,000	
⑤貸倒引当金	0			
⑥雑費	100,000	13,878	50,000	
経常費用計	12,780,000	16,805,778	15,770,000	4,025,778
当期経常増減額	750,000	△ 299,879	230,000	△ 1,049,879
<b>III 経常外収益</b>				
雑収益		12,579		
過年度損益修正益		451,300		
経常外収益計		463,879		463,879
<b>IV 経常外費用</b>				
退職給付費用				
雑損失	100,000			
経常外費用計	100,000			△ 100,000
税引前当期正味財産増減額	650,000	164,000	230,000	
法人税、住民税及び事業税	70,000	80,016	70,000	
当期収支計	580,000	83,984	160,000	
前期繰越正味財産額	16,725,075	16,725,075	16,809,059	
次期繰越正味財産額	17,305,075	16,809,059	16,969,059	

【注】短期借入金限度額 5,000,000円(前年度 5,000,000円)